

令和3年度 予算概要

当改良区は平成31年度（令和元年度）会計から複式簿記会計を導入し、令和3年度の予算編成は複式簿記会計を導入してから3度目の予算編成となりました。

令和3年度の一般会計当初予算額は、18億3573万円で、前年度の一般会計当初予算額、17億3992万円と比較すると、9581万円、5.5%の増額となりました。主な増額要因は受託事業の用排水路移設補償工事が1億8000万円の増額となっていることですが、土地改良事業費や一般管理費の運営事務費支出などの減額により一部相殺しています。

収入面では、共通賦課金単価を田で10アール当たり11,500円に据え置きました。農地転用などによる賦課面積の減少を見込んで、賦課金収入総額は、共通・各区・特殊田負担金合わせて4億4646万円、前年度比で309万円の減額を想定しています。

組合費負担の平準化を図るため、財源として基金積立金から繰り入れを実施しています。維持管理費・事務費など経常経費の減額につとめ、共通基金、決済金積立金から計画的に必要な繰り入れを行う一方、財政調整基金からの事務費充当は昨年に引き続きゼロに抑えました。また、決済金積立金の繰入限度額の算定について、令和2年度積立分から取崩期間を従来の10年から30年に変更しました。これにより決済金積立金の安定的な運用を図ります。

支出面では、一般管理費の運営事務費支出において、職員の定年退職に伴い、職員給与、手当、法定負担金を合わせて1279万円の減額となったのははじめ、研修費、

食糧費、交際費なども、前年度における支出実績に合わせた形で減額した予算編成としています。一方、事務所費支出において、通常の維持管理費用に加え庁舎のバリアフリー化に対応するための費用などを計上しました。

県営事業については、小杉地区で県営経営体育成基盤整備事業が着手され、亀田郷管内における圃場整備事業が実施されることとなります。また、県営基幹水利施設ストックマネジメント事業は今年度本所排水路の補修に対し1億3000万円の事業が予定されています。これについて地元負担金は1950万円となりますが、基金の安定運用を図るため、支出財源としては公庫資金からの借入金としており、今後25年以内での償還財源として賃貸収入からの財源充当を図ることとしています。

団体営事業では、前年度から継続の両川揚水機場ポンプオーバーホールを行う団体営基幹水利施設ストックマネジメント事業や、簡易圃場整備を進める農業基盤整備促進事業亀田郷第5地区などの事業を実施する予定です。また、設計費に新規の圃場整備事業の実施地区の構想設計を行うための費用として300万円を計上し亀田郷管内の圃場整備の推進を図ることとしています。

さらに、維持管理適正化事業により、中野山揚水機場の主ポンプ・電動機の分解整備と、舞潟揚水機場樋門ゲート分解整備実施のための事業費を1161万円計上しています。

上記のような予算編成で、組合費負担の平準化を図りながら、圃場整備事業と用排水施設の適切な維持管理につとめて参ります。組合員の皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

令和3年度 科目別総予算額

単位：千円

